

今月のさがあお豆知識

No.74

詰め物のまわりの着色について

「前に治療してもらったプラスチックの詰め物のまわりに色がついてきたけど、また治療を受けないとだめかな？」

「この歯のプラスチックの詰め物、前はもうちょっと白かったと思うんだけど最近茶色くなってきたな～」と気になられていませんか？

プラスチックの詰め物の治療(コンポジットレジン治療)は、歯を必要以上に削る必要がなく、見た目も歯に近づけて治療できるというメリットがありますが、時間の経過とともに歯との境界部やそれ自体に変色が認められるというデメリットもあります。



色の変色の原因

- ・ 材料自体の「変色」
- ・ 着色物質の「付着」「浸透」

温度差や酸、アルカリなど環境変化が激しいお口の中は残念ながら詰め物の材料が劣化しやすいです。

また、普段の食生活でコーヒー、紅茶、お茶、ワイン、カレーなど色素の濃いものを摂取されている場合は表面に色素が沈着していきます。プラスチック容器にカレーを入れるとプラスチック容器に色が残ることをイメージすると分かりやすいと思います。

COFFEE



⚠️ プラスチックの詰め物の表面の着色であればもう一度磨くと白さを取り戻すことが出来ますが、プラスチックの詰め物自体が劣化している場合や、詰め物の下でむし歯ができていることもあるので、その時はやり変えが必要です。

お気軽にご相談していただけたらと思います！

歯の詰め物や被せ物にはセラミックなど良い材料もありますので、気になったら質問してくださいね。

